

830 KW: 北海道(日本)

Conergy は日本の成長市場への参入により、アジアでのその足跡をさらに揺るぎないものにしていきます。その一例が、北海道新ひだか町で現地の投資会社、株式会社フジコム向けに現在進められている総発電量 830 キロワットの太陽光発電所プロジェクトです。Conergy はゼネコンとしてこの発電所の設計とエンジニアリングを担当しているだけでなく、コンポーネントの供給も担当しています。18,000 平方メートル規模の陸上型設置では、不動産管理センターが現地提携パートナーの役割を果たしています。

2014 年 4 月に完成した際には、Conergy SolarLinea 架台システム上に配置された 3,300 枚の Conergy 「P シリーズ」太陽電池モジュールが、年間 900 メガワットアワーを超えるクリーンなエネルギーを生産すると同時に、440 トンの二酸化炭素排出を削減することになります。2011 年春に起きた福島原発事故を境に、日本国内では二酸化炭素排出量が 40% 近く増加しています。この太陽光発電所は、その削減に貢献するはずで

2012 年に日本に設置されていた全太陽光システムの発電量は 2 ギガワットでしたが、2013 年にはそれが約 7 ギガワットにまで急増しています。この数値は、日本が長期にわたってクリーンなエネルギーへの転換に真摯に取り組んでいくことを実証しています。太陽光発電が国内のエネルギーの大部分を占めるようになれば、日本の二酸化炭素排出量が削減されるだけでなく、将来的には原子力にも化石燃料にも過剰に頼る必要がなくなります。見通しは明るく、専門家たちは、新しい発電能力によって、2014 年には年間発電量が 7 ギガワットから 8 ギガワットに増加すると予測しています。

「日本は、体系的かつ迅速な転換の手本となります」。このように述べているのは、Conergy のアジアおよび中東地域担当社長の Alexander Lenz です。「2012 年に日本で設置されていた太陽光発電システムは 110 億 US ドル相当でした。それが、2013 年には 82% 増加して、200 億 US ドル相当近くに増える見込みです。会社として、私たちは太陽光発電システムに対するこの急速な需要増加から利益を得ることを目標としています。この一年間、私たちは日本での事業展開を精力的に進めてきましたが、現在、その取り組みが期待できる形となって現れてきています」。この太陽光発電事業の成長の可能性から利益を得るために、Conergy の代表である大高秀幸が日本市場での事業を展開することになっています。「Conergy は、世界各国で積み重ねてきた経験と信頼を武器に、日本市場での事業を展開していくつもりです」。



プロジェクトの概要

完成予定	2014年4月	
場所	北海道新ひだか町(日本)	
発電量	830キロワットピーク	
年間生産メガワットアワー	年間905メガワットアワー	
太陽電池モジュール	Conergy結晶太陽電池モジュール(3,300枚)	
パワーコンディショナー	セントラルパワーコンディショナー(22基)	
架台システム	Conergy Solar Linea I	
発電所の規模	17,945平方メートル	
二酸化炭素削減量	年間440トン	

世界はエネルギーに満ちている。